

## 高血圧

気になることやご不明な点がございましたら、  
医師や薬剤師にご相談ください。

医療機関連絡先

エンレストを服用される患者さんおよびご家族の方へ

# エンレスト<sup>®</sup>錠 はじめてガイド

監修：横浜市立大学医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学  
主任教授 田村功一 先生

# 高血圧って実は危険な病気？！

- 高血圧とは、塩分の摂りすぎやストレス、肥満など複数の生活習慣の悪化により、血圧が高い状態が続いてしまう病気です。日本国民の約3人に1人が罹患する国民病です<sup>1)</sup>。
- 高血圧は、ほとんどの人で自覚症状がありませんが、血圧が高い状態が続くと、血管や心臓に大きなダメージを与えてしまいます。その結果、こちらに示すような、命に関わる重大な病気が起こる危険性が高まります。
- しかし、生活習慣を改善しながら、定期的に通院して血圧をコントロールすることで、これらの病気を抑えられることが、数多くの研究で確かめられています<sup>2)</sup>。
- そのため、高血圧の患者さんは、高血圧の原因となる生活習慣を改善しながら、定期的に通院して処方されたお薬をきちんと飲むことが大切です。



## 心筋梗塞

心臓の血管が詰まって、心臓の筋肉が壊死してしまう病気です。生命の危険があります。

## 心不全

心臓の機能が低下して、血液をうまく送り出せなくなった状態です。



## 脳卒中

脳の血管が破れて出血したり、詰まったりしてしまう病気です。生命の危険があります。



## 腎不全

腎臓の機能が著しく低下した状態です。腎臓の細かい血管が障害を受けると、血液を正常にろ過できなくなります。悪化すると透析が必要になります。

### 【腎臓の病気】

尿蛋白が出たり、腎機能の低下した状態が3ヵ月以上続く場合を慢性腎臓病 (chronic kidney disease, CKD) といいます。慢性腎臓病が進行すると腎不全になり、透析や腎移植が必要になることがあります。

1) 平田恭信 監修. 患者のための最新医学 高血圧 最新治療と食事, 高橋書店, 2017

2) 日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 編, 高血圧治療ガイドライン2019, p.47, ライフサイエンス出版, 2019

# 高血圧治療の目標

- 一般的な治療の目標として、75歳未満の人では診察室血圧で130/80mmHg未満を、75歳以上の人では140/90mmHg未満を目指します。家庭血圧ではそれぞれ5mmHg低い値を目標にします。
- 合併している病気の状態などによって、より低い値を目標にしたほうがよい場合や、逆に慎重に血圧を下げたほうがよい場合があります。
- 食事や運動などの生活習慣の改善に加え、お薬による治療により、治療目標値の達成を目指します。

## 高血圧の治療目標値 (高血圧治療ガイドライン2019)

75歳未満

**診察室血圧130/80未満**  
(家庭血圧125/75未満)

※ただし、以下では診察室血圧140/90未満(家庭血圧135/85未満)

(1) 脳血管障害(両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞あり、または未評価)、(2) CKD(慢性腎臓病 蛋白尿陰性)

日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 編、  
高血圧治療ガイドライン2019, p.53, ライフサイエンス出版 より改変

75歳以上

**診察室血圧140/90未満**  
(家庭血圧135/85未満)

※ただし、以下では診察室血圧130/80未満(家庭血圧125/75未満)

(1) 脳血管障害(両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞なし)、(2) 冠動脈疾患、(3) CKD(慢性腎臓病 蛋白尿陽性)、  
(4) 糖尿病、(5) 抗血栓薬服用中

日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 編、  
高血圧治療ガイドライン2019, p.53, ライフサイエンス出版 より改変



# 主な高血圧の治療薬

- 高血圧のお薬には、主に4つの種類があります。

## ホルモンに作用するお薬

ACE阻害薬  
ARB  
ARNI

血圧を上げるホルモン「アンジオテンシンⅡ」の働きを抑えることで、血圧を下げるお薬です。ARNIには、血圧を下げるホルモン「ナトリウム利尿ペプチド」の働きを強める作用もあります。

ACE:アンジオテンシン変換酵素 ARB:アンジオテンシン受容体拮抗薬  
ARNI:アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬

## 血管に作用するお薬

カルシウム拮抗薬

血管が収縮するときに必要なカルシウムイオンの働きを抑えて、血圧を下げるお薬です。

## 腎臓に作用するお薬

サイアザイド系利尿薬  
MR拮抗薬

体内の余分な水分と塩分の排泄を促し、血流量を減らして血圧を下げるお薬です。

## 自律神経に作用するお薬

$\beta$ 遮断薬  
 $\alpha$ 遮断薬

交感神経の働きを抑え、心臓の過剰な働きを減らしたり、血管を拡張させることで血圧を下げるお薬です。

# エンレストとは？

- エンレストは、「アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI)」という種類の高血圧治療薬です。
- ホルモンに作用する従来のお薬 (ACE阻害薬やARB) は、血圧を上げるホルモンの働きを抑えることで、血圧を下げる作用をもちます。
- 一方、ARNIはその作用に加えて、「ナトリウム利尿ペプチド」という、血圧を下げるホルモンの働きを強める作用を併せもちます。



# エンレストの飲み方 (高血圧)

高血圧の治療では、通常、**1回200mgを1日1回**服用します。

高血圧での飲み方は、通常、1日1回 200mg

エンレスト  
投与開始

最大1日1回 400mgまで  
お薬の量を増やすことがあります。

1日1回 200mg

(医師の指導のもと、  
患者さんの状態に合わせてお薬の量を調整します)

【1日1回100mgで開始する患者さん】

- 透析中の方 ● 重度な減塩療法中の方 ● 利尿降圧剤を服用中の方

【1日1回100mgで開始する可能性のある患者さん】

- 高齢の方 ● 腎臓の働きが重度に低下している方
- 肝臓の働きが中等度に低下している方
- 上記以外にも100mg開始が必要であると医師が判断した患者さん

- 透析中や重度な減塩療法中の方、利尿降圧剤を服用中の方は、1日1回100mgで開始します。また、高齢の方、腎臓の働きが重度に低下している方、肝臓の働きが中等度に低下している方、上記以外にも100mg開始が必要であると医師が判断した患者さんは、1日1回100mgで開始することもあります。
- 目標の血圧までなかなか下がらない場合は、1日1回400mgまでお薬の量を増やすこともあります。
- 医師の指導のもと、患者さんの状態に合わせてお薬の量を調整します。お薬の量については自分で判断せず、必ず医師の指示に従ってください。

心不全を治療中の高血圧患者さん、  
高血圧の治療中に心不全を発症した患者さんへ

心不全を治療中の高血圧患者さんや高血圧の治療中に新たに心不全を発症した患者さんでは、患者さんの状態に応じて1日に飲む回数や1回に飲むお薬の量を調整します。お薬を飲む回数や量については自分で判断せず、必ず医師の指示に従ってください。

# エンレスト服用中に注意していただくこと

エンレストの服用中、以下のような症状があらわれることがあります。

- **低血圧** (p.9参照)
- **高カリウム血症** (p.10参照)
- **腎機能障害** (p.11参照)
- **血管浮腫** (p.12参照)
- **脱水** (p.13参照) など

「低血圧」、「高カリウム血症」、「腎機能障害」、「血管浮腫」、「脱水」については、特に注意が必要です。

これらの副作用は、一緒に服用するお薬との相互作用で強くあらわれることもあるので、ほかのお薬を服用している場合は、必ず医師や薬剤師にお知らせください。

このほか、気になる症状があらわれた場合は、すぐに医師や薬剤師に相談してください。



# 低血圧

エンレストには血圧を下げる作用があることから、低血圧を起こすことがあります。血圧が下がりすぎると、失神発作を起こしたり、一時的に脳に血液が流れなくなるなどの重い症状がみられることがあるので、注意が必要です。

**低血圧による以下の主な症状に注意してください。**



低血圧は、エンレストの服用を開始したときや増量したときに起こりやすい傾向があります。これまでに降圧薬を服用したことがなく、初めての高血圧治療薬としてエンレストを服用する方は特に注意してください。また、高齢の方、腎機能が低下している方、利尿薬や降圧薬と一緒に服用している方も、低血圧が起こりやすいため特に注意が必要です。

ご自身の体調変化に早く気づくため、日頃から定期的に血圧を測り、記録しておくようにしましょう。

また、血圧が低いときはめまい、ふらつきが生じるため、高所での作業や車の運転など、危険を伴う機械の操作には十分注意してください。

# 高カリウム血症

一般に、腎機能が低下した患者さんでは、エンレストの服用により尿へのカリウムの排泄が少なくなり、血液中のカリウム値が高くなることがあります。  
高カリウム血症が進展すると不整脈を引き起こすことがあるので、下記のような違和感を覚えたら早めの対応が必要です。

## 高カリウム血症による以下の主な症状に注意してください。



エンレストを服用している間は、上記の症状に気を付けましょう。  
特に、腎機能障害、糖尿病、低アルドステロン症と診断されたことのある方、腎機能が低下している方、利尿薬と一緒に服用している方、カリウムを多く含む食事やカリウムのサプリメントを摂取している方は、高カリウム血症のリスクが高いとされていますので注意が必要です。

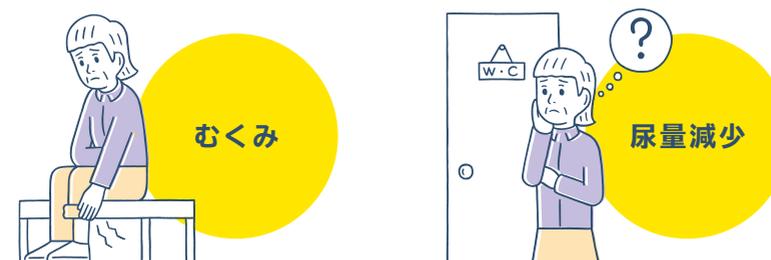
高カリウム血症が起こった場合は、医師や栄養士の指導のもと、食事においてカリウム摂取量を減らすといった対処も行います。

健康状態の変化を注意して観察し、上記の症状があればすぐに医師や薬剤師に相談しましょう。

# 腎機能障害

エンレストの服用により、腎臓の働きが低下する（腎機能障害）ことがあります。  
腎機能障害の主な症状として、体の左右対称に生じるむくみや尿量の減少などがあります。

## 腎機能障害による以下の主な症状に注意してください。



腎機能障害は、エンレストの服用を開始したときから1ヵ月間に起こりやすい傾向があります。また、高齢の方、腎機能が低下している方、利尿薬と一緒に服用している方は、腎機能障害を起こすリスクが高いため、十分に気を付けましょう。

特に、エンレストの服用を開始する前から腎機能障害のある方は注意が必要です。

健康状態の変化をよく観察し、上記の症状があればすぐに医師や薬剤師に相談しましょう。



# 血管浮腫

エンレストの服用後、皮膚や粘膜に血管浮腫という過敏症状があらわれることがあります。のどが腫れた場合は呼吸困難を起こすこともありますので、特に注意が必要です。

**血管浮腫による以下の主な症状に注意してください。**



エンレストを服用している間は、上記の症状に気を付けましょう。

健康状態の変化を注意して観察し、上記の症状があればすぐに医師や薬剤師に相談しましょう。

なお、以前に血管浮腫と診断を受けたことのある方は、エンレストを服用できないため、医師や薬剤師に相談してください。



# 脱水

エンレストの服用により、脱水を起こすことがあります。水を飲んでも治まらないのどの渇きや、口の中の乾燥感を感じたときは脱水の症状である可能性がありますので、注意してください。

**脱水による以下の主な症状に注意してください。**



エンレストを服用している間は、上記の症状に気を付けましょう。

利尿薬と一緒に服用している患者さんでは、脱水が起きる可能性がありますので注意してください。

のどが渇き、水を飲んでも良くならないときには、すぐに医師や薬剤師に相談しましょう。

**P.8～13で挙げた症状やその他の気になる症状があらわれた場合は、速やかに医師や薬剤師にご連絡ください。**

